

通信・インターネット

1. 評価対象企業（13社）

【通信】（5社）

インターネットイニシアティブ、NTT（注1）、KDDI、ソフトバンク、ソフトバンクグループ

【インターネット】（8社）

カカココム、ディー・エヌ・エー、グリーホールディングス（注2）、GMO ペイメントゲートウェイ、メルカリ、LINE ヤフー、サイバーエージェント、楽天グループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注1）日本電信電話が商号を変更した（2025年7月）。

（注2）グリーが商号を変更した（2025年1月）。

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	27
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	6
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは30名（所属先20社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、一部の項目内容および配点を見直しており、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は71.2点（昨年度69.4点）、総合評価点の標準偏差は9.1点（昨年度7.7点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、通信（5社）は78.3点（昨年度74.6点）、インターネット（8社）は66.8点（昨年度64.2点）となった。評価対象企業13社のうち11社の総合評価点が上がった。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が75%（昨年度73%）、**説明会等**が72%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が80%（昨年度78%）、**ESG関連**が69%（昨年度65%）、**自主的な情報開示**が56%（昨年度54%）となった。昨年度に比べ、5分野において、平均得点率が同率または改善した。
- ④ 評価項目（全15項目）について見ると、平均得点率が80%以上の高水準となったものは、次の2項目（**経営陣のIR姿勢等**の中の1項目（a）および**フェア・ディスクロージャー**の中の1項目（b））であった。

（a）「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか」（平均得点

率 82% [昨年度 81%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)) : 60%台 1社・70%台 4社・80%台 5社・90%台 3社)

(b) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」 (平均得点率 98% [昨年度 97%]) (得点率 : 90%台 2社・100% 11社)

⑤ 一方、次の項目 (自主的情報開示) の平均得点率については、一部の企業の得点率が改善したものの、50%台にとどまった。評価対象企業間の得点率の差は広がっており、下位評価企業においては、改善努力を強く求めたい。

・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会 (記者発表会等を含む) を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」 (平均得点率 56% [昨年度 54%]) (得点率 : 20%台 1社・30%台 2社・40%台 3社・50%台 1社・60%台 2社・70%台 2社・80%台 2社)

⑥ ESG 関連の 4 項目は、次のとおりとなった。昨年度に比べて、全ての項目で平均得点率が改善したが、3 項目において 60%台にとどまっている。

(a) 「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」 (平均得点率 75% [昨年度 69%]) (得点率 : 50%台 1社・60%台 1社・70%台 7社・80%台 4社)

(b) 「資本政策 (資本コスト・キャピタルアロケーション等) や株主還元策 (配当・自社株買い・自社株消却等) の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか」 (平均得点率 65% [昨年度 63%]) (得点率 : 40%台 2社・50%台 3社・60%台 3社・70%台 3社・80%台 2社)

(c) 「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」 (平均得点率 66% [昨年度 62%]) (得点率 : 40%台 2社・50%台 2社・60%台 4社・70%台 2社・80%台 3社)

(d) 「E (環境)・S (社会 (人的資本を含む)) に関する情報を統合報告書などで具体的に開示し、経営戦略の中で方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか」 (平均得点率 69% [昨年度 67%]) (得点率 : 40%台 1社・50%台 1社・60%台 4社・70%台 5社・80%台 2社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 ソフトバンク (ディスクロージャー優良企業 [2 回連続 2 回目])、

総合評価点 82.4 点 [昨年度比+2.8 点]

① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位 (得点率 (以下省略) 88%)、経営陣の IR 姿勢等 (85%)、ESG 関連 (80%)、自主的情報開示 (83%) が第 2 位、説明会等が第 3 位 (80%) となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。

② 経営陣の IR 姿勢等においては、「会社主催の説明会 (電話会議を含む) に社長が出席していること」が満点となり、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」も最も高い評価となった。これらに関連して、社長スモールミーティングが充実しており有益であるとの声が多く寄せられたほか、経営幹部が IR 活動に積極的に関与しているとの声があった。また、「IR 部門の機能」(第 4 位) および「IR の基本スタンス」(第 4 位) も共に、昨年度に比べて得点率が改善した。これらに関連して、IR 部門と経営陣の情報連携のレベルが高いとの声が寄せられた。なお、セグメントの予想前提のさらなる開示を望む声があった。

③ 説明会等においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が最も高い評価となり、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目 (オペレーションデータ等) の実績および見通しを十分に開示していること、また、情報開示の後退がないこと」も同得点第 2 位となった。「説明会、インタビューにおける開示」は第 4 位となった。これに関連して、説明会の内容は充実しているとの声があった。

④ フェア・ディスクロージャーにおいては、2 項目共に最も高い評価 (同得点第 1 位) となった。そのうち「投

資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」の得点率は、昨年度に比べて10ポイント改善した。

- ⑤ ESG 関連においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が最も高い評価となり、そのほかの3項目も第3位となった結果、この分野において第2位となった。これらに関連して、統合報告書で ESG 戦略や取組みが詳細にわかりやすく説明されているとの声や、ESG 説明会が大変参考になったとの声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第2位となり、昨年度に比べ、得点率が改善した。有益なイベントとして、データセンター見学会、Softbank World 2024 を挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 KDDI（総合評価点 80.7点〔昨年度比+3.0点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、ESG 関連が第1位（83%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（88%）、自主的情報開示が第3位（78%）、経営陣の IR 姿勢等が第5位（83%）、説明会等が同得点第5位（74%）となった。昨年度に比べて、4分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が満点となったほか、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」が同得点第4位となった。これらに関連して、社長スモールミーティングを評価する声や、経営幹部が IR 活動に積極的に関与しているとの声が寄せられた。また、「IR 部門の機能」（同得点第2位）は、90%以上の得点率となった。これに関連して、幅広い議論にも対応し、IR 部門と経営陣の情報連携のレベルが高いとの声が寄せられた。なお、セグメントの予想前提のさらなる開示を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が同得点第1位となった。「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第5位となった。「会計基準の変更・セグメント見直し・KPI の定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」は同得点第11位となり、平均得点率に達しなかった。なお、会社計画で通信 ARPU を非開示にしたことは改善の余地があるとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、2項目共に最も高い評価（同得点第1位）となった。そのうち「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」の得点率は、昨年度に比べて5ポイント以上改善した。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策の開示」、「目標とする経営指標等の開示」および「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」の3項目が、最も高い評価となった。また、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」（同得点第2位）も高い評価となり、これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、サステナビリティ統合レポートで ESG 戦略や取組みが詳細に説明されており大変有益であるとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第3位となった。有益なイベントとして、データセンター見学会、YouTube による各種事業説明会を挙げる声があった。

第3位 インターネットイニシアティブ（総合評価点 79.4点〔昨年度比+4.6点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（86%）、説明会等（85%）が第1位、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位（82%）、自主的情報開示が第5位（67%）、ESG 関連が第7位（71%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」、「IR 部門の機能」および「IR の基本スタンス」の3項目が、最も高い評価となった。これらに関連して、IR 部門の

説明は丁寧で大変参考になるとの声や、IR 担当者は十分な情報量を有し理解しているとの声が寄せられた。

「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」は第 6 位となったが、経営幹部とのミーティングは示唆に富んでおり参考になるとの声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること、また、情報開示の後退がないこと」および「会計基準の変更・セグメント見直し・KPI の定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」が共に、最も高い評価となった。「説明会、インタビューにおける開示」も第 3 位となった。これらに関連して、決算説明会等を通じた情報発信の取組みが充実しているとの声が寄せられた。また、業績変動要因に関する説明を評価する声もあった。「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」は同得点第 4 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が満点となり、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」が同得点第 4 位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等の開示」が第 2 位となり、昨年度に比べ得点率が 10 ポイント改善した。「資本政策、株主還元策の開示」は第 6 位となった。なお、中期的な資本効率目標と、それを実現するためのキャピタルアロケーションに関する説明のさらなる充実を望む声があった。「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」は第 8 位、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は第 11 位であったが、共に昨年度に比べて得点率が改善した。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」（第 5 位）は、昨年度に比べて得点率が改善した。有益なイベントとして、データセンター見学会を挙げる声が多く寄せられた。

以 上

2025年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (通信・インターネット)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目4 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4 (配点27点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目2 (配点5点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目4 (配点32点)		5. 各業種の状態に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点6点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9434 ソフトバンク	82.4	25.6	2	21.7	3	4.4	1	25.7	2	5.0	2	1
2	9433 KDDI	80.7	25.0	5	20.1	5	4.4	1	26.5	1	4.7	3	2
3	3774 インターネットイニシアティブ	79.4	25.7	1	23.0	1	4.1	4	22.6	7	4.0	5	4
4	9432 NTT	78.8	24.5	6	20.1	5	4.0	9	25.0	3	5.2	1	3
5	2371 カカココム	77.4	25.3	4	22.3	2	4.1	4	23.1	5	2.6	9	5
6	3769 GMOペイメントゲートウェイ	76.2	25.5	3	21.6	4	3.9	10	23.3	4	1.9	12	
7	4689 LINEヤフー	70.6	21.6	9	19.3	8	4.1	4	22.7	6	2.9	8	9
8	9984 ソフトバンクグループ	70.4	21.1	10	19.5	7	4.2	3	21.8	8	3.8	6	7
9	4751 サイバーエージェント	68.0	22.6	7	16.1	12	4.1	4	20.8	9	4.4	4	8
10	4755 楽天グループ	67.1	22.1	8	18.0	10	4.1	4	19.7	11	3.2	7	6
11	4385 メルカリ	64.5	19.0	11	18.9	9	3.8	11	20.4	10	2.4	10	10
12	3632 グリーホールディングス	56.2	17.0	13	16.8	11	3.5	12	17.2	12	1.7	13	
13	2432 デイ・エス・エー	54.3	17.9	12	14.9	13	3.1	13	16.4	13	2.0	11	
	評価対象企業平均点	71.21	22.53		19.40		3.98		21.93		3.37		

2025年度の具体的評価項目および配点（通信・インターネット）

【評価期間：2024年7月～2025年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
①会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか。 【4回以上：2点 3回：1点 2回以下：0点】	2	●
②会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(2)IR部門の機能		
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8	
(3)IRの基本スタンス		
・会社にとって都合の悪い情報、不祥事、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	10	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（27点）	配点	委員のみ
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示		
①アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しは、十分に開示されていますか。また、情報開示の後退はありませんか。	10	
②キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	3	
③会計基準の変更・セグメント見直し・KPIの定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	4	
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点	委員のみ
①経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	1	
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	4	
4. ESGに関連する情報の開示（32点）	配点	委員のみ
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示		
・社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を統合報告書などで十分に説明していますか。	6	
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）や株主還元策（配当・自社株買い・自社株消却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか。	11	
(3)目標とする経営指標等の開示		
・目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4	
(4)E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する取組み		
・E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する情報を統合報告書などで具体的に開示し、経営戦略の中で方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか。	11	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（6点）	配点	委員のみ
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していたサービスないし施設・設備名をコメント欄に記入して下さい】	6	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

通信・インターネット専門部会委員

部会長	増野 大作	野村証券
部会長代理	大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント
	奥村 裕介	岡三証券
	醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント
	得永 一樹	大和証券
	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（30名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	得永 一樹	大和証券
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	仲西 恭子	アセットマネジメント One
岩淵 啓介	岡三証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大浦 裕太	第一生命保険	納 博司	いちよし経済研究所
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
奥村 裕介	岡三証券	福井 悠香	第一生命保険
巖 智用	野村証券	堀 雄介	みずほ証券
菊池 悟	SMBC 日興証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
岸本 晃知	みずほ証券	増野 大作	野村証券
熊澤 伸悟	大和証券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	三村 恭祥	いちよし経済研究所
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐藤 耕喜	JP モルガン証券	米島 慶一	シティグループ証券
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。